

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v.1.4)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|------------|
| 建物名称 | 北里大学病院 新病院 | 階数 | 地上14F、地下1F |
| 建設地 | 神奈川県相模原市北里1-15-1 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 準工業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 2,500 人 |
| 気候区分 | 地域区分 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年 |
| 建物用途 | 病院 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2013年12月 予定 | 評価の実施日 | 2011年7月1日 |
| 敷地面積 | 48,222 m ² | 作成者 | (株)日建設 |
| 建築面積 | 11,913 m ² | 確認日 | 2011年7月10日 |
| 延床面積 | 92,777 m ² | 確認者 | (株)日建設 |



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 4.0 ★★★★★

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

建設 構築・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

参照値

建築物の取組み

上記+ 以外のオンサイト手法 76%

上記+ オフサイト手法 76%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 4.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.0

| 3 設計上の配慮事項 | |
|--|---|
| <p>総合</p> <p>『良質な医療環境』と『環境にやさしい病院』を両立するため、患者にとって快適で健康的な空気環境・光環境を生理学的アプローチから再考し、ロングライフとパッシブのインテグレーションにより、自然の恵みを最大限に取り入れ、生体センシング技術や高効率システム等の最先端の省CO₂技術との融合により、スマート・エコホスピタルの実現を目指す。</p> | <p>その他</p> <p>中央監視・BEMS等の情報システムを活用しながら、ベッドサイド端末等へエコ情報を発信し、利用者へエコ活動を誘発し、エコ・ドクター・コンソーシアムとして、エコ療養環境の生理学的技術検証・情報発信を行う。</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>各室毎に個別制御可能な照明、空調システムとした。特に病室は、療養する患者の生体リズムにあわせて、中央監視システムから空調機器の設定温度変更や高効率LED照明による調光制御が可能なシステムとした。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>外部リフトとリフトアップによる改修の容易な構造計画とし建物を長寿命化。災害時の機能維持のため、電源設備の2重化、発電機容量の余裕、雑用水備蓄、井水による飲料水確保、ポンプアップ排水システムの確保。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>外部リフト・バルコニーによる日射負荷の低減、外部リフト自然換気・ナイト・ソー、太陽熱利用、太陽光発電、在室人員や脱臭による空調・換気変風量、熱回収HP+大容量水蓄熱+深夜電力給湯による高効率熱源システム構築。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型便器、自動水栓をほぼ全箇所に採用することにより、節水に配慮した計画とした。また建設材料として有害物質を含まない材料を優先的に採用する計画とした。</p> |
| | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼系の熱源設備を給湯および滅菌・加湿用途の一部に局所化し、大気汚染防止に配慮した。病院から排出される感染系の排水は、オゾンと安定化二酸化塩素によるハイブリッド処理を行い、従来の次亜塩素酸に比べ、環境負荷を低減。</p> |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい